

学校だより **熱** **砂**

<発行>
令和元年 10月 22日
発行責任者：校長
和田 政男

新校長着任のご挨拶です。よろしくお願ひいたします。

年度途中、10月20日の着任となりました。校長の和田政男と申します。岩手県北上市から参りました。

元々は中学校の教員で理科（物理）が専門です。日本人学校は2度目の赴任で、2010～2012年度はシンガポール日本人学校中学部校長を務めておりました。シンガポールも暑い国でしたが、ドバイは暑さのレベルが違ふと感じました。

着任式での最初の子供たちの挨拶がとても元気がよく、中学部の生徒の歓迎のことばもとても立派で、印象の良いスタートとなりました。これからのドバイ日本人学校での生活がとても楽しみです。

どうぞよろしくお願ひいたします。



10月20日は、

二人の転入生がありました

世界中に89校ある日本人学校は、ドバイに限らず、転入・転出がとても多いのですが、いつ転入してきても、いつ転出して対応できるような教育課程の編成をしております。

新しい環境に飛び込むのは、大人でさえストレスが大きいわけですが、その経験がまた人を成長させます。日本人学校の児童・生徒たちは、多くがそのような経験を持っており、「多様性への理解」が進んでいると感じます。

転入生のあった学級の学級だよりを読むと、すぐに馴染んで元気に過ごしているようです。

日本人学校ならではの「良さ」を感じた次第です。

異年齢集団の良さ

ドバイに来てまだ4日、学校に着任して2日しか経っておりませんが、子供たちの素直さ、親密さに感心しています。

例えば掃除。少ない人数ながら、上級生が下級生を指導して、先生の手を借りずに自分たちで掃除する姿。（その後、登下校時のスクールバスのアテンダントの方々が、子供たちの手の行き届かないところをきれいに掃除してくれています。古い校舎なのに、トイレの床や便器がピカピカなのに驚きました。）

例えば昼休み、幼稚園の演劇練習を観る児童・生徒の姿。とても素敵でした。こんな素敵な子供たちに育ててくださった保護者、先生方に感謝です。

学校は

**「ちがひ」と「まちがひ」
がみとめられ、大切にされるどころ**

私が入学式の式辞でいつもお話することですが、（ドバイ日本人学校に限らず）およそ学校は「ちがひ」と「まちがひ」がともにみとめられ、大切にされるどころである、ということです。

人は皆、姿・形も、好みも、性格も当然違います。これを個性といいます。学校は多様な個性を持った児童・生徒が集い、その個々の違いから学びあい、成長するのです。ですから学校では個々の違いがみとめられ、大切にされるのです。

私たちはたくさんのまちがひを犯します。でも学校では、まちがうことから学習がスタートします。知らないこと、まちがうことから広大な学びの世界が広がるのです。ですから学校ではまちがひがみとめられ、大切にされるのです。

ぜひ、児童・生徒のみなさんには、共に学ぶクラスメイトの個性と、自分らしさを大切にして生活してほしいと思います。「みんなちがって、みんないい」のです。

またまちがひをおそれず、さまざまなことに積極的にチャレンジし、大いに成長してほしいと思います。

ドバイ日本人学校が、海外で暮らす児童・生徒のみなさんの大きく深い学びの場、成長の場になることを願ひ、職員一同、より良い教育環境の提供と、児童・生徒の人格の完成をサポートすべく努力することを、新校長着任の機会に改めて決意しているところです。

今後とも変わらぬ、ご家庭の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。